



2026 年 8 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社アゴーラ ホスピタリティー グループ
代表者名 代表取締役会長 ウィニー・チュウ・ウィン・クワン
(コード：9704、東証 スタンダード)
問合せ先 取締役CFO シ・フェイティン
(TEL. 03-3436-1860)

第2四半期（中間）業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2026 年 2 月 13 日付で公表した 2026 年 12 月期（2026 年 1 月 1 日～2026 年 12 月 31 日）の第2四半期（中間）業績予想と本日公表の実績値との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026 年 12 月期中間連結業績と実績値との差異（2026 年 1 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,500	450	400	150	0.59
今回実績 (B)	4,217	204	145	△ 59	△ 0.22
増減額 (B-A)	△ 282	△ 245	△ 254	△ 209	
増減率 (%)	-6.3%	-54.7%	-63.7%	—	
(ご参考) 前中間連結 会計期間実績 (2025年 12月期)	4,996	508	445	275	1.05

2. 差異の理由

2026 年上半期の日本政府観光局発表の訪日外国人客数は、継続する円安傾向のもと、累計で 2,108 万人（前年同期比 2.0%減）となりました。春節やイースター休暇の期ずれなどにより累計では前年を下回ったものの、韓国・台湾・米国といった主力市場が好調に推移し、インド・東南アジアなどの新興訪日市場が多様化しました。一方で、中国からの訪日客は各月で前年同月比 45%～60%程度の減少となりました。

このようななか、ホテル事業を中核とする当社グループは、インド・東南アジアなどの新興訪日市場の開拓に努めておりますが、関西エリアにあるホテルにおいて訪日外国人客の減少を受けたことにより、中間連結売上高は 4,217 百万円（前年同期比 15.6%減）となりました。中間営

業利益は204百万円（前年同期比59.8%減）となりました。これは、中間連結売上高の15.6%減少に伴う利益の減少のほか、減価償却費、第10回ストックオプションの株式報酬費用等の営業費用が増加したことによります。また、中間経常利益は145百万円（前年同期比67.4%減）となりました。これは、為替差益52百万円等の計上により営業外収益118百万円を計上した一方で、支払利息109百万円等の計上により営業外費用176百万円が発生したことによります。法人税等合計が51百万円となったことにより、中間純利益は93百万円となりました。非支配株主に帰属する中間純利益は152百万円となり、親会社株主に帰属する中間純損失は59百万円（前年同期は275百万円の利益）となりました。

今後の見通しにつきましては、関西エリアの訪日外国人客減少や大阪万博の反動等により、2026年2月13日公表の第2四半期（累計）の連結業績予想を下回りましたが、通期業績予想につきましては、現時点では据え置いております。これは、当社のホテル事業が第4四半期に売上が偏重する傾向があるためです。また、万博開催等の特需があった前年からは減収減益であるものの、引続き東京エリアのホテルや霊園事業の売上の伸びが下期にかけて継続していくものと見込んでいることによります。なお、業績予想に関し修正の必要が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上